



畔柳 伸行

愛知県 J A あいち三河 生活燃料部 部長

くろやなぎ・のぶゆき / 1988年、六ツ美農業協同組合に入組、燃料部門SSで2年勤務。1990年からは市内4農協が合併した岡崎市農業協同組合で支店に配属、金融窓口と金融渉外を担当。1998年から県内3 J A が合併した J A あいち三河で共済専任 L A を務め、11年間で6支店を担当。2009年に、 J A あいち三河 宮崎支店長を務め、3支店の支店長を経験。2019年からは共済部生命建物共済課長を務める。2022年から現職。

J A あいち三河では各支店において「支店運営委員会」を設置し、地域と連携して様々なイベントを行っています。こうした活動を通して組合員との関係強化をはかっている、生活燃料部の畔柳部長に、ご自身の農協人生の中で取り組んできたことや、支店運営委員会での取り組みなどについてお聞きしました。

■ JA 組合員が親しめる J A であること

——畔柳部長は1988年旧・六ツ美農業協同組合に入組、燃料部門SSで2年勤務後、金融渉外、共済専任 L A を務めたあと3支店の支店長を経験され、様々な J A の業務に携わってこられました。

入組して一番初めに配属されたのが農協の燃料部門で、ガソリンスタンドに2年ほど勤務しました。当時の新入職員は、大抵の場合、ガソリンスタンドかエコープに配属になっていたと記憶しています。入組1年目にはドライブウェイサービスコンテストに出場しました。そのコンテストは、5分ほど実際にガソリンスタンドでお客役の審査員を接遇し、接客態度・点検・誘導などの項目で点数

をつけ総合点を競うものです。入組して間もない時期でしたが、なんと地区大会と県大会で最優秀賞を受賞し、その先の東海北陸大会でも入賞するという好成績を収めました。当時は全く経験がない中で働いていましたが、努力が認められたと感じた良い思い出です。



『家の光』『料理カード』記事を使った料理教室も好評

そのあとは、金融渉外・共済専任 L A を経験してきましたが、L A 時代で特に印象に残っているのは2008年8月末に起こった豪雨災害のことです。豪雨当日は、有休を使用してゴルフに行く予定だったのですが、天候の状況を見てすぐに支店へ向かったことをよく覚えています。その豪雨の影響で自分の担当地区に甚大な被害が及び、年末まで建物共済の被害請求対応に奔走しました。状況を確認するために、直接現地を見て回りましたが、床上浸水などの被害が多く、大きな被害にあっていることを目の当たりにしました。2～3か月たって状況が落ちつき、共済金の支払いができたあとは、「すぐに支払いただけて、生活の立て直しがすぐにできたよ」「共済に入る時は掛金が高いな～と思っていたけど、入っただけ

てよかったわ」など加入者の方から感謝の言葉を沢山いただきました。自分の仕事が加入者の生活の助けになっている実感を得られました。

2009年からは支店長を務めるようになりました。J A の支店には日々組合員の方から様々な相談が寄せられますが、そうした話に耳を傾けることで J A に親しみをもってもらうことを意識していました。



支店長時代には管内小学校で地元農産物についての授業も行った

生活燃料部長になったのが2022年ですが、その年に「女性部に入るまでは J A との付き合いはほとんどなかった」との言葉を複数の女性部員から耳にしました。女性部や助け合い組織が J A と組合員をつなぐ重要な役割を果たしていることに遅ればせながら気づいた瞬間でした。

■ 地域に合った交流イベントを開催

——現在、J A あいち三河では支店運営委員会の活動として「3世代交流スポーツ大会」「竹水鉄砲であそぼう」といったイベントを開催されています。詳細をお聞かせください。

「支店運営委員会」とは、各支店長が中心となり J A 役職員や地域の方々 10 名程度で構成されている委員会です。地域と J A の交流イベントの企画などを行っています。さらに J A あいち三河には「推進班」という制度があります。支店勤務以外の職員も推進班員として各支店に所属し、イベントや



質疑応答を交えながら楽しく座学する子どもたち

PR 活動を行う時には、所属している支店に協力します。「3 世代交流スポーツ大会」「竹水鉄砲であそぼう」などのイベントは、「支店運営委員会」と「推進班員」が力を合わせて開催されています。現在、私が所属している支店では 2 年前に 2 支店が統廃合した関係で、旧支店エリアでそれぞれ別の活動をしています。

「3 世代交流スポーツ大会」については、地元の老人クラブと子ども会と J A が連携した活動です。支店運営委員会に老人クラブのメンバーがいたこと、小学校の PTA バザーに J A から野菜を出品していた経緯があったことなど、様々なご縁が重なり開催に至りました。大会では、グラウンド・ゴルフなど年代が違って無理なくできる種目を中心に行います。中でも珍しいのが、岡崎市が発祥の「バツケリング」という競技です。バツケリングは 3 ～ 6 m 離れた場所に設置されたバケツにお手玉を入れて、その点数を競います。誰でも簡単にルールを把握でき、体力に自信がなくても楽しめるため、とても盛り上がります。

「竹水鉄砲であそぼう」は地域の子ども会と連携し、親子で参加してもらったイベントです。

竹林の環境問題について取り組んでいる講師の方をお招きして、最初に竹林についての座学を受けてもらいます。

その後、竹水鉄砲を実際に作るワークショップを行い、作ったものを使って竹



全力で竹水鉄砲合戦に参加する職員

水鉄砲合戦をします。ポイをつけたヘルメットをかぶって、それを打ち抜くために、親、子ども、J A 職員が走り回りながら、竹水鉄砲を撃ち合います。最後は大人も子どももなく、みなさん全力で楽しんでいました。こうしたイベントのおかげで、子どもたちや子育て世代とのつながりが増加し、J A を知ってもらう機会を生み出すことができました。

支店運営委員会を主軸としたイベントは、今までJ Aと関りがなかった層との接点の創出に大きく貢献しており、今後もぜひ続けていきたいと考えています。

❖ プランナー専修講座での学び

——2024年7月には「教育文化・家の光プランナー専修講座」にご参加されました。

組織推進課の課長に誘われたのがきっかけです。思えば、入組当時のS S勤務を除くと金融共済部門に長く所属し、数字に追われ農協職員でありながら経済部門や組織活動をほとんど意識せずに過ごしてきました。

現在の立場となって以降、今までの仕事とガラッと内容が変わったことで、世界が一気に広がり、農協職員としての自分の役割を強く意識できるようになりました。専修講座に参加し、その意識はより一層強くなりました。

正直なところ、グループディスカッションなどはあまり得意ではなく、研修時はとても緊張しておりましたが、参加者のみなさんの熱い思いや参考になる事例を聞くことができ、充実した研修になったと感じております。

これまでも、教育文化活動の重要性を理解したつもりではありましたが、実際に活動をする立場に身を置き、体験することでしか気づけないこともあるのではないかと考えています。

❖ 若いうちにこそ様々な経験を

——農協人として、次世代を担う職員へのメッセージをお願いいたします。

現在、J Aが担っている役割というのはどんどん専門化しています。金融・共済をはじめ、J Aは様々なサービスを提供する必要がありますが、競合も増えている今、そのどれもが高いレベルを求められます。昔は組合員とJ Aのつながりが今よりずっと強固だったので、馴れ合いになっている部分があっても許されてきましたが、組合員とのつながりが希薄になってきている今はそうもいきません。

そんな時こそ意識してほしいのが、J Aの強みです。一つの組織で様々な事業を行うということは、言い換えると事業間連携が取りやすいということです。若い職員には、ぜひ職員同士の事業間連携を積極的に行ってほしいです。組合員の方とのなにげない相談や雑談からでも、違う事業を担当する職員同士で情報共有を行えば、共済の加入につながったりするかもしれません。

そしてできれば若いうちにいろんな部署・部門を経験してほしいと思います。数年ごとの異動で全く違う仕事をするのは、最初のうちは苦勞するかもしれませんが、ですが、そのうちJ Aの全体像が見えてきますし、そのことが財産になります。

私は2025年3月で定年になりますが、次世代を担う職員には、ぜひ広い視野をもって仕事に取り組んでほしいと思います。